

峰のひかり

発行人

社会福祉法人七峰会

理事長 奥田 稔

〒036-8356

青森県弘前市大字下白銀町 21-8

電話 (0172)33-8861

FAX (0172)33-8862



故 木村 剛 監事



故 三浦 清道 元会長

七峰会後援会の支柱 故三浦元会長と故木村監事の御霊に

社会福祉法人七峰会

理事長 奥田 稔

今年の夏は異常でした。北国青森県や北海道で異常な暑さに見舞われて農水産領域で大変な様相を呈しました。それに、国内至るところで熱中症で倒れる方々が多数発生しました。

私共の周囲では、社会福祉法人七峰会を支援する地域団体「七峰会後援会」で、平成4年の再建発足後も後援会長として努めて平成14年までの任期を務め、会の発展と充実に当られた、曹洞宗津軽山葦秀寺前住職、三浦清道様が、8月19日に逝去されました。

又、会発足以来これまで監事として活動を評価して下さり、自ら活動の中心になって後援会活動を充実させる尽力を下さった、保険のきむら代表、木村剛様が、8月20日に急逝されました。

お二方の在りし日を偲んで心から哀悼

のまことを捧げるものであります。

お二方は共に、後援会発足の時から、初代理事長と共に「弘前を中心とした福祉圏域構想」に関心を寄せてくれ会の発足に協力下されました。

昭和50年代に初代理事長が「弘前を中心とした福祉圏域構想」を抱いて沢山の方々に話され、働く障がい者“の為に運動を進める事にしました。何故に弘前圏域かと言うと通勤寮を弘前と八戸に開設する計画を立てたのに、当時の県当局は八戸への進出を認められず、結果的に通勤寮西寮拓心館が事業を始めました。その後は、青森県全域を視野に入れていたのを弘前地域に限定したのでした。

初代理事長の夢は大きかったので、その当時からのお二人でした。

御尽力されたお二方に、今はただ心静かに御冥福をお祈りする次第です。



台掌

知的障害者更生施設 拓光園

休日の余暇は拓光園で

『拓光園』では、自宅で生活をし、園に通って来て支援を受けている方々のための居宅支援事業として通所利用事業、障害児デイサービス、日中一時支援事業を行っています。

居宅支援事業では、これまでも利用者の皆さんの希望等に配慮し、それぞれの事業所で月に一度の外出行事を実施してきました。

今年度は特に日祭日の利用者のための余暇利用に力を注ぐため、通所利用事業所、障害児デイサービスセンター、日中一時支援事業所が連携し、合同での外出行事を多く行っています。

さくらんぼ狩り、鯉ヶ沢海水浴、田舎館村田んぼアート見学などの行事ではボランティアの学生さんにも同行して頂き、利用者の皆さんと楽しい触れ合いを持つことができていました。

7月3日は、初めての親子バス遠足を企画し、青森市の『浅虫水族館』へ行ってきました。当日は天候に恵まれ、参加者37名を乗せた大型



バスは晴やかな道路を颯爽と駆け抜け、水族館での様々な魚やイルカのショーは、ご家族や利用者の皆さんを大いに楽しませてくれました。お昼は近くのホテルの大広間を借り、テーブルいっばいに並んだ彩り鮮やかな食事を食べながら、会話にも大いに華を咲かせました。帰りは、『アスパム』に寄り、それぞれが買いたい物を楽しみました。

これからの居宅支援事業では、利用者の皆さんが多くのことを経験し、親子の触れ合いや、ご家族同士のつながり、職員との親睦が図れるような休日の楽しい企画を行っていきます。

旭光園 夏祭り

身体障害者更生施設 旭光園

7月30日(金) 『旭光園』で第19回夏祭りが開催されました。当日は前日から雨模様で午前中も雨がぱらつき、外での開催が危ぶまれていましたが、午後からは天気も回復し、利用者の斎藤秀さんと佐々木栄子さんの司会で進行されました。

『旭光園』の夏祭りといえば、「炭火を使った焼き肉」です。毎年、卓上に炭

火コンロを置き、みんなで焼き肉を楽しみます。お肉はとても柔らかく厚い特上物でたいへん好評でした。その他に、大きな鉄板の上では新鮮なエビやホタテが焼かれ、どの食べ物も満足のいく一品でした。

また猛暑という事もあり、カキ氷のイチゴとメロンの売れ行きが抜群でした。恒例の福引も行なわれました。日用品を賞品として、第10位から当てていただきました。期待された第1位の賞品は室内掃除機が当たり、当選した人は満面の笑み、当選しなかつた人は残念そうな顔と両極端になりましたが、一喜一憂し、大いに盛り上がりました。

今年もテーブル対抗3択クイズを行いました。1チーム約12名の8チームで競い合いました。みどころは「利き納豆」「利きカップ焼きそば」でした。それぞれ3商品を食べ比べ、旭光園特製福福納豆と焼きそばUFOを当てるものです。納豆は豆の大きさ、タレの味の違い、匂いの強弱など、カップ焼きそばでは、麺の太さ、形、ソースの味や色の違いなどを分析し、解答する方がいました。さすがに納豆は日頃朝食で食べているだけに、正解者が多数でした。優勝チームはお菓子や洗剤など山積みになった賞品を分け合っていました。

最後は手持ち花火をしながら、盛夏のひとときを楽しみました。

身体障害者療護施設 山郷館グループ

外部講師による活動紹介

『山郷館児童・障害者デイサービスセンターくれよん(児童デイサービス事業)』、『山郷館地域活動支援センターくれよん(地域活動支援事業II型)』では、利用者の皆さんの余暇活動や日常生活充実を目的に外部講師による活動を提供しています。活動には現在、「調理教室」、「書道教室」、「フラワーアレンジメント」がありますが、今回はその活動の中の1つである「料理教室」について紹介したいと思います。

【料理教室】

『中澤家庭料理研究所』の中澤美知子先生による料理教室です。

(月2回火曜日 10:00~13:00)

内容…火を使わないIH調理器やL字型の包丁、まな板に固定して使える包丁など障がいを持った方にも安全に使えるよう配慮された調理器具を使用し、利用者の皆さんが主体的に参加されています。材料費は300円で、毎回旬の食材を使用し、利用者の皆さんの「こんな料理を作っ



てみたい。この食材を使ってみたい」など希望を取り入れ実施しています。参加者の皆さんに季節感を感じて頂くために旬の食材をふんだんに使用したメニューを提供しています。

9月は、「豚肉とピーマンの線切り炒め」、「蒸し茄子の薬味じょうゆ」といった夏野菜をふんだんに使った中華メニューに挑戦しました。また、クリスマスやお正月が近づくと、クリスマスケーキやおせち料理作りを実施しています。出来上がったケーキやおせち料理は、きれいにラッピングや飾りつけをしたケーキ箱、重箱と一緒に自宅に持ち帰り、家族へのプレゼントや日ごろの料理教室の成果を披露する良い機会となっていて喜ばれています。

特別養護老人ホーム 『サンアップグループ』

熱中症対策

今年の夏は、30度を越える真夏日が長く続き「熱中症」による救急搬送のニュースが連日のようにきかれました。

特別養護老人ホーム『サンアップホーム』は、岩木山弥生に程近い所にあるとはいえ、例年になく暑さに変わりはありませんでした。そこで、熱中症対策を練り、利用者の皆さんが、健康で元気に夏を過ごせるよう対応しました。

○食事

①虚弱高齢者

1人ひとりの摂取量のデータから、食の細くなっている方に対し、朝の涼しい時間に、高カロリーの卵料理を一品添える。また、味噌汁の代替に、冷たい「そうめん椀」の提供をする。

②夏ばて予防

嗜好調査の結果、「うなぎ」が好まれる事から、週2回「蒲焼き」や「ひつまぶし」など少し味の濃いメニューを取り入れる。その他に「ところてん」「冷奴」など喉越しの良い物や「果物」など水分を多く摂れる食材、汗で失われた水分や塩分の補給に「ポカリゼリー」を提供する。

○節水強化

①一日の水分量

1日1500cc以上の摂取（日中おむつゼロの基本の取り組み）

②水分摂取管理

既往歴に応じた個別の水分摂取量とともに適度な塩分補給（1ℓに対し約9gの塩分が目安）

③脱水予防

食事が半分以上、水分摂取量500cc以下の方に点滴

○環境・生活

①居場所の確保
エアコンの付い



ている部屋の開放、デイスタービスセンターの扉を開放。涼しい風の流れを作ります。

このような対応の結果、熱中症による入院は一人も出ることなく夏が終わりました。しかし、夏を乗り切った体は秋に疲れが出てくるものです。引き続き、食事・医療・環境については、季節に応じて、変化をもたせながら対応していきます。

拓心館グループ
自閉症児就労訓練

拓心館グループ『通勤寮拓心館』では、年2回、自閉症児就労訓練を実施しています。高等部は今回で9回目、中学部は5回目となりました。訓練は高等部と中学部に分けて行われ、高等部は8月3日〜7日の5日間、中学部は8月9日〜11日の3日間で実施しました。

訓練は、毎朝通勤から始まります。弘前駅に8時までに集合し、ボランティアの方と一緒にバスで『通勤寮拓心館』へと出勤します。

到着し作業着に着替えると、まずは身嗜みのチェックが行われます。髭の剃り残しをしない、寝癖を直してくる、洗濯された衣類を着る等、清潔感ある身嗜みを整えることは、就労における最も基本的な管理の一つとなります。

作業は主にパチンコ台の解体を行いました。ドライバーを使って分解した後には、種類の分別もしなければなりません。単純な作業に思えますが、一人で全てを遂行する為には多くの能力が求められる仕事になります。参加児童の中には、支援員による講義を通して就労に必要な知識を学習した方もおり、出来る限り個人に合わせたメニューでの実施を目指しました。

訓練の最終日には、参加した日数に応じたお給料も支給しました。「パソコンのソフトを買う」「預金する」など、早速どのように使おうか、楽しそうに考えている様子が窺われておりました。また、「（訓練で学習したことを）学校や家でも気を付けて生活してみたい」と意欲の感じられる声も聴かれておりました。

自閉症の方々へ支援を行っていくうえで「将来の生活をイメージすること」は大切にすべき考え方だと言われています。学童期後の生活では「仕事」が多くなる時間を占めることになりま。拓心館グループでは、より充実した青年・成人期へのお手伝いの一つとして、「自閉症児就労訓練」の場を提供していきます。



身体障害者療護施設 **山郷館くろいし**

『山郷館ライフ』オープン



9月20日、黒石市緑町に障がい者のためのグループホーム・ケアホーム一体型『山郷館ライフ』（入居定員5名）がオープンしました。12日より、見学や体験利用を済ませ、現在3名の方が入居しています。

山郷館ライフは、建築基準や消防基準等に合わせ、一般住宅を改修した建物です。共同で生活する環境の中で、介護や相談、日常生活上の支援を受けながら各自が地域で自立した社会生活を営むことができるようになることを目的としています。お部屋は、7畳（収納を含む）の洋室です。居間、トイレ洗面所、浴室は共用となっています。家賃は1万5千円で、水道・光熱費5千円、共益費3千円、食費2万5千円と冬期間は暖房費（実費）の費用負担があります。

食事提供、介護、相談支援等のため、世話人兼生活支援員1名が朝と夕夜の支援にあたるほか、夜間1名の職員が宿直しています。入居者は、平日の日中はここから、就業先やデイサービスセンター等へ通います。入居者のいろいろな支援は、身近な『山郷館総合支援センター黒石』が担当します。

現在、七峰会では、黒石市内の障がい者（児）支援施設として、山郷館くろいし、パレット、角田住宅、キャンパスがあり、これに山郷館ライフが加わり、地域の障がい者（児）支援を行うこととなります。障がいや年齢、環境等に合わせ、自立した生活ができるよう今後も努力してまいります。

山郷館ライフに関するお問い合わせ先

山郷館総合支援センター黒石

0172-88-5018

総合支援事業

- 青森県指定 津軽障害者就業生活支援センター ☎4524
- 弘前市委託事業 弘前市障害者生活支援センター ☎2400
- 弘前市委託事業 弘前市北部地域包括支援センター ☎2100
- 黒石市委託事業 山郷館総合支援センター黒石 ☎5018

障害者支援事業

主に知的

- 知的障害者生活支援施設 拓光園 ☎2331
- 通所利用事業
- 拓光園短期入所支援センター
- 拓光園障害児デイサービスセンター
- 拓光園日中一時支援事業所
- 拓光園共同生活介護事業所（2ヶ所）
- 拓光園グループ ☎4520
- 自立訓練事業（宿泊型自立訓練生活訓練）
- 津軽生活支援センター（共同生活介護援助）
- はあと（児童デイサービス）
- 就労サポートU（2ヶ所）就労移行就労継続B型事業
- 勇心学園（就労訓練施設）
- エイブル（生活介護、就労継続支援B型）

主に身体

- 身体障害者福祉施設 山郷館 ☎2211
- 山郷館身体障害者（児）短期入所事業所
- 山郷館アイサービスマスターセンター
- 山郷館アイサービスマスター
- 山郷館アイサービスマスター弘前
- 山郷館地域活動支援センターくればん
- 山郷館訪問介護センター
- 山郷館訪問介護センター黒石 ☎6080
- 山郷館パレット（福祉ホーム）
- 身体障害者福祉施設 山郷館くろいし ☎3070
- 身体障害者福祉施設 旭光園 ☎5155
- 通所他障害者利用事業
- 旭光園身体障害者短期入所事業所
- 福祉ホームさわら

高齢者介護事業

- 特別養護老人ホーム
- サンアップルホーム ☎2111
- サンアップル短期入所生活介護センター
- サンアップルホームデイサービスセンター
- サンアップルヘルパーセンター ☎3758
- 認知症グループホームアップル ☎2778
- 認知症デイサービスセンターじょい ☎2013
- サポートセンターわかば ☎1165
- 認知症グループホームわかば
- デイサービスセンターわかば
- 介護サンアップル在宅介護支援センター ☎2131
- 在宅型有料老人ホーム「わかば」 ☎1888

居宅介護支援事業

- 山郷館居宅介護支援センター ☎2941
- サンアップル居宅介護支援センター ☎2131